暴露したデタラメ

監禁 不法 事件第一回公判開く

昨年夏おこなわれた会社のデッチ上げ事件による組合員の逮捕は、官憲による労働運動への不当介入だと、われわれはいきどおりながら敵の結託した攻撃に、憤りを新たにしたが、その第一回公判が十七日地裁久留米支部でひらかれた。起訴状による事件のデタラメが組合側の追及にしたがつて一つひとつはつきり姿をあらわした。

労働運動を確認させる

昨年夏、賃金分割払いで各支部では職制への追及をおこなつたが、会社は不当にも事件をデッチ上げ官憲もこれとグルになつて組合活動に弾圧介入して来た。

このデッチ上げ事件で「暴力行為と不法監禁」の容疑で峰喜平（三川労働部員）、北岡ひとし（三川労働部員）西川米生（三川教宣部員）、角経弘（港務労働部員）、野口鶴蔵（三川職場委員）の各氏らは逮捕されたが、そのご起訴され、第一回公判が二月十七日午後一時から地裁久留米支部で、柳原裁判官係、村重検事、諫山弁護士らの立合いでひらかれた。

この日は組合からも浦川、酒井両政治局員、谷端三川支部長、山下港務支部長の四氏が特別弁護人として出廷、また傍聴席には傍切りバスでかけつけた組合員、主婦六十名が裁判の成り行きを注目していた。

鋭い追及つづく

まず、人定質問からはじまり、つづいて検察側は起訴状を読みあげた。ところが、被告弁護団の陳述に入る前に、諫山弁護士は起訴状の中に疑義の点があるのでそれを明らかにしなければ認否ができないと、つぎの点についてすさどく追及をおこなつた。

○この事件に関係した会社側と組合との交渉は、労働組合の団体交渉その他の団体行動権の行使とみているのか、それとも無縁のものと見ているのかどうか。

○会社の賃金分割払いは労働基準法第二十四条違反だと思うが検察官の見解はどうか。

なお、以上の外にも起訴状で読みあげられたものは、全く人を馬鹿にしたデッチあげで、この点についても、例えば「犯意を通じていうことは何か、時期、内容、方法を釈明せよ」「多数の暴力を示したとは何を意味するか」「狂暴したというが、では誰と誰を指すのか」「数人共同してというが数人とは誰のことか」と追及をおこない、以上の問題を明らかにしなければ認否ができないと迫つた。

これに対して検事は「釈明要求にたいして、これをすべき点もあるがしない点もある。主任と打合せて次回に検討したい」と逃げようとしたが、追及の手をゆるめず、「デタラメだ。あなたが責任をもつて起訴してここに出席しているのに、主任と打合せるのはおかしい」「裁判官の指示に従え、裁判官はどう思うか」と追及した結果最終的にはシブシブできるものからやろうということで、

(1)行使の過程でしたことは認めるしかし過程を逸脱したものである。

(2)必ずしも基準法に違反行為ではない。

と述べた。

堂々と陳述する被告達

分割払いが違反でないとは何事かと迫つた結果「遅払いの外形は認める」ということを発言した。

これにたいして浦川特別弁護人が「賃金分割払いの容疑は濃厚だが最終的にシロクロが出ていないので〃必ずしも〃といつたのかどうか」と追及したところ、裁判官は「違反として非常に疑がわしい点があることは認める」ということに落着いた。

以上をめぐつて法廷内は一時かなり紛糾した場面をみせた。

結局、労働運動をたんに刑事事件としてみる点があるので、組合側は前記(1)について追及し確認させた。

なお、その他の個々の問題については次回に主任担当検察官と打合せの上釈明することになつた。

この日、法廷に出席した各被告はともに「闘争中であつたことは認めるが、それ以外の不法監禁については否認する」と堂々と認否の答弁をおこない、いささかも後暗さがなく、正当な労働運動の主張を述べ注目された。

谷端特別弁護人も立つて、企業整備の不当性をつき、これがつよく事件の背景となつていることを主張した。

なお、次回公判は三月十六日におこなわれる。

動員のヒケツ？

各山の主婦代表も分宿

主婦の怒りをこめた総決起大会は二月十四日、笹林公園で盛大に挙行されたが、北は北海道から常磐九州の各山から主婦の代表たちも参加した。

代表は十三日に来山、各分会に分れて組合員宅に宿泊、懇談会や話し合いに出席した。

主婦会幹部が大挙して来山し宿泊したのはこんどがはじめてであつた。

緑ガ丘山吹分会には日炭高松と三菱なまず田の主婦が分宿、午後七時から闘争本部で懇談会をもつた会場には部屋一ぱいの出席で、楽しい交流の夕を送つた。

高松の主婦は「幹部と会員がバラ

バラにならないためにどうすればよいかと、いまパイプは通つているが、それを掃除しようということで主婦の情宣をやつています」と二人で交互に高松となまず田の現状について話をした。

このあと情宣のこと、集会のこと文化活動、運営、役員選出など話し合つたが、とくに「三池の動員のすばらしさには感心しています日常どういう活動をしていると、こういう動員ができるのですか」と質問も出ていた。

この日、各地域でこの主婦会代表をかこみ話し合つたが、翌日の決起大会には、この人たちを包んで会場まで各社宅を出発した。

地域大行進始む

安保批准反対で四日間

二月から三月にかけて全国一せいに「安保改定阻止・生活と権利を守る大行進」の県内行進がおこなわれるが、大牟田では三月十日に福岡市向けて行進を開始することになつた。

安保改定阻止大牟田地区共闘会議では、この県内行進にさきがけて二十四日から二十七日までの四日間に「安保改定批准反対地域大行進」をくりひろげることになつた

大行進は毎日午後四時から六時半まで、集合場所は笹林公園。ハツピ、ノボリ、横断幕、タスキなど事務局で用意するが、できる限り多くの人たちの参加や、沿道での行進団の歓迎と激励をおこなうよう呼びかけている。

行進コースはつぎの通り

（二月二十四日）

笹林公園―郵便局―銀座通り―太陽館横―執行給油所―新地町―小浜町―スワ町―三川町―県境（解散大会）

（二月二十五日）

笹林公園―上官町―築町―大正町―明治町―手鎌―西鉄銀水駅―草木四ツ角農協前（解散大会）

（二月二十六日）

笹林公園―上官町―築町―五月橋―東新町―通町―御幸返橋―三池町（解散大会）

（二月二十七日）

笹林公園―上官町―末広町―勝立―善徳―いち野（解散大会）

北国の友だちからの手紙

子供同志の文通しきり

オルグの交流やカンパによつて、いま地域では全国の仲間との交流が手紙のやりとりで一段と活ぱつになつている。

ところが、大人たちの交流にも負けずに、子供たちの文通もさかんになつてきた。

馬渡子供分会では、集団で手紙を出したり、三川支部でも子供たちが文通しあつている。

このほど組合本部に北海道のよい子からつぎのような〃お友だちをはげます手紙〃がよせられた。手紙を読んだよい子たちは、この北の国のお友だちに手紙を出してください。

× × ×

三池炭こうの皆さん、ロツク・アウトを、皆んなではねかえしてください。ぼくの父さんは太平洋炭こうではたらいています。父さんは安全とうではたらいていますが、しよくばかつどうかなので、首切りをされると、まつさきにきられるでしよう。でもその首をきられないようにしなければなりません。

それには、皆んなが力を合せなければなりません。皆さんがまければ会社は強くなり、ますます皆さんの首をきるでしよう。だから皆さんにはぜひ勝つてもらわなければなりません。

ぼくの家の母さんはストになると、お金をせつやくします。だから、ほしいものでも、むだなものや必ようのないものは、かつてもらえません。でも、ストで勝つてもらえると思うとなんぼせつやくしてもかまいません。

ところで、皆さんたちのヤマでは「もうとのとうそうはかつた」という会社のデマがとんでいるそうですが、そんなデマにまけないで、がんばつてください。

ぼくにも手紙をください。

さようなら。

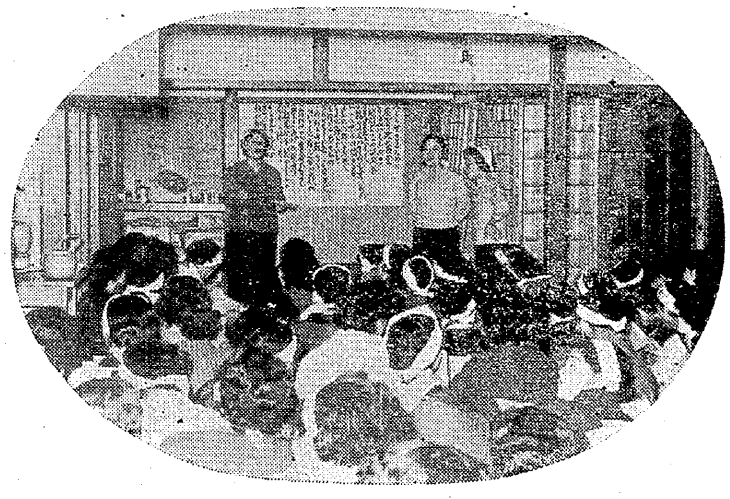
二月十六日

小学校四年　佐藤　広基

三池労働組合

× × ×

この手紙を送つてくれたみなさんのお友だちの広基くんの住所（と）



うたごえ盛ん

ロツク・アウトいらい、いま地域ではうたごえや労働歌の練習がさかんだ。主婦や組合員はもちろん老人や子供たちまで参加して練習する姿があちこちで見うけられる本所支部の臼井分会や七夕分会など、練習をはじめてからもう二、三年になる。

臼井では毎週木・土の二日間、約一時間にわたつて〃うたごえサークル〃の人たちの指導で、合唱練習をおこなつている。

二月十三日、この日は各山からかけつけた主婦会代表もまじえ、闘争本部で午後八時から一時間「大行進」のうたを、じつくり練習した。（写真は臼井分会主婦たちの合唱練習）

お父さんたちのスト

二年　谷端久美子

お父さんたちのストは
もう　三ヵ月になつた。
わたしは　きつと　しんじている。
組合はかつと　しんじている。
お父さんも、お母さんも、おね
えさんも、みんなが
かつとしんじている。
時どき　ラジオやテレビで
組合のことを　いつている。
わたしは　耳をすまして
じつときいている。

わたしは　早くストがおわると
いいなあと思つている。
かいしやが　首切りをやめたら
ストなんかしなくてよいのだ。
わたしたちは　毎しゆううた声
のれんしゆうをしている。
かいしやが
ほいくえんを　かさないから
おふろばでしている。
みんなでれんしゆうした
首切りのうた
「みんなでみんなでてきをうて
」のうたを　首切りがかつまで
みんなでうたおう！

〃総評主婦の会〃

七月までに結成準備進む

総評では主婦会結成にとりくみ、昨年から〃総評主婦の会〃の結成をよびかけているが、現在までの傘下単産の主婦会は、約三十万名の会員が組織されたにすぎない状態である。

中央ではとりあえず、すでにできあがつている主婦会だけでも、全国的なヨコの連絡をとり、七月に全国主婦会協議会を結成しようとの運動がすすめられている。

北海道では、アミの目のように主婦会を組織しようと、道主婦連協が昨秋から精力的な組織活動にのり出した。九州での準備状況はつぎの通りである。

【長崎】県婦人団体協議会（会長小林ヒロ）があり、地区ごとの連絡協議会が組織されている。

【佐賀】総評主婦の会結成の動きはないが、一月三十日県青年婦人協議会を結成、炭婦協も正式に加盟した。

【福岡】炭婦協、国鉄むつび会、日通、西鉄などの主婦会で総評主婦の会結成準備がすすんでいる。

嘉飯地区では昨秋、労組家族、失業者、民主団体の婦人たちで地区婦人協議会が結成され、選挙地区でもその準備が現在すすめられている。

三月六日実施

大地評駅伝きまる

恒例の大地評駅伝もことしで第九回を迎えるが、大地評では三鉱労組の企業整備反対闘争、各単産の春闘や安保改定反対闘争などのなかで、ますます統一と団結を固める意味からも、来る三月六日に実施することになつた。

監督会議、メンバー交換、コース巡りを二月十六日午後一時から大地評二階でおこなうことになつている。コースは例年通りで、全コースを八区にわける。

第一区（市役所前―荒尾市役所裏）第二区（緑ガ丘社宅事務所前）第三区（一部橋）第四区（草木三池高校下）第五区（渡瀬農協前）第六区（瀬高十字路）第七区（渡瀬農協前）八区（市役所前ゴール

闘う川柳会報

（原万田地域分会）

原万田地域分会では、十三日午後六時から多数参加して、正木暁、岩田上篝の両氏を囲み〃闘う川柳会〃をひらいた。入選句次の通り

△ソフトボール風景

失策を笑う拍手も班の人　進
ボール奴を敵と見なして打つ気魄　ひろし
ソフトボール首を忘れる日の楽し　和平
空振りへ親しい野次がとんで来る　柳水
ソフトボール余ゆうタツプリ社宅街　土鎌

△ロツク・アウト

ロツク・アウト余裕をみせる畑をうつ　和平
ロツク・アウトから起ち上る低姿勢　末男
飢えぎせてから勝つ積りロツク・アウト　研坊
ロツク・アウトがつちり受けて長期戦　信夫

△カンパ

社宅中をカンパの声が屋にする　柳水
味噌汁の湯気もカンパという匂い　暁
寄せ波へ耐えよとカンパ届けられ　幸光

△P・R

P・R敵のあがきと見る余裕
資本家は赤字にしとくP・R　和平
赤字とは思えぬ空のP・R　夏子
サツカリンのような言葉でP・R　暁